

## 稀魚の生活色に就いて(第2)

黒田長禮

On the life colors of some rare Fishes.—II

Nagamichi KURODA

(19). サザナミフグ 一名ヨコシマフグ *Tetraodon hispidus* LINNE 1946年10月19日志下沿岸近くにて採集幼魚全長 60.5mm 及び 1947年10月23日 桃郷にて採集全長 44.5mm. 是等の標品は大体にて GÜNTHER (Cat. Fish. Brit Mus.) の記載に一致する。背面は暗オリーブ褐色、眼先き、眼下部及び体後方は色淡く、帯オリーブ淡褐色で、眼先きと吻中央に各1微小蒼白点があり、その他の背面、体側、尾柄、C. 基底に蒼白色の長味小点又は後方程微小点を有し、喉部や体後方の下部にあるものは圓点となる。又圍眼部は黒色で、その後半輪縁は細き蒼白色。P. 基底と鰓孔(その縁は黄緑)とを含める部は黒色で、而して黄色の1圓縁にて兩部を一所に縁取る。下顎基部は黒い。D. P., 及び A. は何づれも白色で、僅に黄味を帯び、C. は基部 $\frac{2}{3}$ はオリーブ色、先 $\frac{1}{3}$ は黒色となる。腹部は擬白色の地に14の縦帯があり、黒色で、前方は淡汚褐色の細線となり、第5縦帯は左右共後方に屈出部があり、次のものは後方中斷する。尚ほ肛門前には短き斜々半輪形の2黒横斑をなしている。

因に *T. sazanami* TANAKA をホシフグのシノニムとする人もあつたが、私は阿部宗明博士の分類に従つて *T. hispidus* のシノニムと認める。私の採集したホシフグの稚魚はホシフグの成魚同様に腹に暗色帯はなかつた。この点から見ても *T. sazanami* はホシフグの仔ではない様に思われる。

(20). ウケグチメバル *Sebastodes scythropus* JORDAN et SNYDER. 1951年7月31日伊豆松崎附近 120~130 尋で福本正之君釣獲のもの全長 225mm. を入手した。体の地色は美しい淡紅赤色で、腹方は銀白色に富む。頭側も淡赤白色、側線は淡紅紫色を呈する。頭上から背方は黄金オリーブ色で、体側に此色からなる4横帯があるが、これは雲形斑と云う方が當る。JORDAN & SNYDER (1900) の原圖に一致する。この横帯の下方は濃赤色となる。鰓蓋上の黒横帯は明瞭で、これも帯黄金暗褐色を呈する。D. 棘は帯紅色、膜は黄オリーブ色である。第2背鰭は P., V., A. 及び C. と共にバラ赤色で美しい。C. は中央に幾分黄オリーブ色の1淡横斑が不鮮明に存する。鰓條皮は暗桃紫色を呈するが、鰓の色よりは淡い。眼瞼部は帯赤色、虹彩は黄金色。上下唇は淡赤色である。

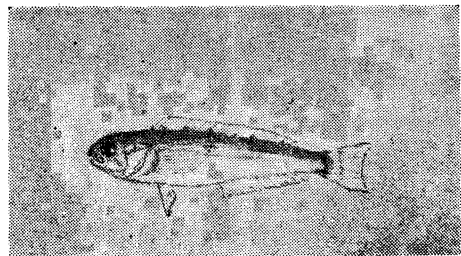
(21). シロカサゴ *Setarches fidjiensis* GÜNTHER 1947年12月27日伊豆戸田沖トロールの成魚全長 203mm. を入手。虹彩は橙黄色に微小暗点がある。体色はシロカサゴの名はあるが生時は全身鮮濃赤色(或は帯紫赤色)で、アヤマカサゴと共にあるときは後者の方は白赤色に見える程である。頭部、背方及び体後半は殊に濃赤色が強い。上顎上縁の凹部は灰黒色。体には極めて不判明の淡灰色の横帯4個があり、体下方に至つて消える。頭の大部分と体には微小暗点があり、体鱗は細かい圓形である。腹正中線には P. 基部と肛門間に長 45mm. 幅 4.5mm. の灰黒色の1縦帯があり、これは丁度兩者間一バイに達する。側線は明瞭で暗赤色、鰓蓋前骨棘第2は多少短い感ある程度でアカカサゴ (*S. longimanus* (ALCOCK et MCGRICHIST) の如く微小にあらざること及び D. の最後から第2番目(11番)の棘長は頭長の  $\frac{1}{10}$  よりも多くは長いこと(アカカサゴでは  $\frac{1}{10}$  より短い)は共に特徴である。D. 棘軸は赤色、その膜は淡紅色で、棘は膜外に半位出る。その膜の上縁は第1棘を除き他は灰黒色で後方に至れば膜の大部分にも此色を帯びる。軟條部は軸淡紅色、膜は開けば殆ど無色透明。P., V. 及び A. は鮮赤色濃く、A. の方幾分淡く、而して各鰭は開けば膜は殆ど無色透明、V. 基部の軸は2~3白い。A. の軟條部基部には多少暗色斑がある。C. は

美しいバラ赤色で、開けば膜は殆ど無色透明である。眼の形は擬三角形で、瞳孔は楕圓形である。

(22) ヒメヤマノカミ *Brachirus bellus* JORDAN et HUBBS. 1947年12月9日千本沖手繰網に入つた幼魚(全長62mm.)を入手した。セトミノカサゴに似るが体が卵形で長味が少なく体高が高い。一見した体色は岡田・内田・松原、1935, pl. 120, fig. 3に一致する。しかし幼魚の爲め多少の差がある。体の地色は灰赤色で、頭を除き不判明の5横帯があり、是等の帯は成魚では暗赤色なるが、本品では暗赤褐色で殆ど赤味はない。頭側は淡紅色の地に眼後方に暗赤褐色の不判明縦斑3個がある。眼下には不規則に5赤色斑がある。体側から腹方は銀白色を帯びる。觸手状突起(皮質)は眼上1個(黒色)、眼下骨に1個(帯白赤色)あるのみ〔成魚の様に鼻孔壁に1個、眼下骨に2個はない〕。D. 棘は桃色を主とし、それに赤色と黒色との小斑があり、多少交互するが、成魚の様に此暗斑が3~4列をなさず1~2列にすぎない。D. 軟條はC. と同様灰黄色の地に幾分桃色を帯び、黒色の小点を散在する。P. は長く桃色の地に5擬黒色横帯があり〔成魚の様に赤色横帯でなく、又P. 先端が幅廣の黒色でもない〕。V. は淡白桃色地に4擬黒横帯が明瞭にあり〔成魚の如く赤横帯でない〕。又A. はV. と同色で、それに4擬黒横帯があり、中央2個は明瞭、他は桃色を加味し不判明〔成魚の如く赤横帯でない〕。虹彩は灰赤褐色、内細輪は黄金色である。

(23) ヒメオコゼ *Minous monodactylus* (BLOCH et SCHNEIDER). 1946年11月10日桃郷沿岸小地曳網で漁獲の1点(全長87mm.)入手。虹彩は淡黄白色、上方暗褐色、下方に暗褐色の放射小斑がある。体の背方は灰色地に多くの淡灰黒色の不判明な横斑があり、D. 軟條部下では横の虫喰斑となる。側線は背方近くにあり、尾柄上縁近くに達する。側線下には少々太い不規則の縦斑があり、2縦帯を形成する。腹方は白地に多少桃色を帯びる。P. により蔽われる部分は無斑の帯淡桃白色である。腹側後方のA. 基部上方は灰黒色に淡桃色を帯びる。頭部には多くの粒状点や棘を有し口角上方と鰓蓋前骨に生じる2棘は白色で少々長く鋭い。眼の前後に小棘があり、眼後部と眼後上方とに各2個の粒棘状突起があり桃色を帯びる。又眼下より鰓蓋の鋭棘迄の間に粒状隆起があり、これと此棘の上下方も桃色を帯びる。頭の地色は灰黒色である。下顎には各側2對の白色の小觸鬚がある(短い)。D. の膜は淡灰色で上端に細黒縁があり、棘膜に灰色斜線があり、軟條部前方に1大黒斑があり、それが各3條の斜横斑に分れる。P. の最下方の1軟條は遊離し、全体黒色で、6~7横線が不判明に存在する。P. 裏面は美しき暗赤色で、縁が黒く、上面より一層不判明な暗色横線がある。遊離軟條は黒く先き $\frac{1}{3}$ 位は gamboge yellow となる。V. は黒色で、基部 $\frac{1}{3}$ 位は灰白色、前方の基部に紅色の1小斑点がある。A. は黒色。C. は多少黄味ある白地に3灰黒色横帯がある。これらの黒帯は個体變化に富む。

(24) クジメ *Agrammus agrammus* (T. et S.) 1947年2月22日志下沿岸近きシラス手繰網に入つたクジメ幼形(阿部宗明博士同定)1点を入手した。全長45mm, 体高8mm.の小魚で多少シイラに似た形で、成魚とは全然異つた体形と体色とを有する。体の背方から前頭は誠に冴た鮮蒼綠色で、その下縁は多少灰色の1線となる。側線上方の小區域と側線下は一樣なる帯蒼銀色。P. 基部、尾柄後端とC. 部は蒼綠色。頭上は暗桃色〔内部が透視〕、鰓蓋は銀色で、多少帯蒼色。D. は1基で基底長く、無色透明で、基部に5~6の小灰色点が不判明に列在する。P. とV. とは無色透明、C. も大部分無色透明で基部に多少近き部に1淡灰色横線が不判明に存し、C. の後縁は凹入型で極めて浅い。虹彩は銀色で、上下に各々1鮮赤色斑がある。



第3圖 クジメ幼形全長  
45耗のもの 背方は鮮蒼綠色  
著者寫生 志下シラス網にて

此幼型は頗る珍らしく、私には同定が出来兼ねたので阿部博士の手を煩わしたことを茲に深謝する。阿部氏、日本産學會誌、xvi, no. 11, p. 497, 1951 及び小川良徳氏「採と飼」vol. 13, no 8, pp.238~240 は参考となる文献である。

(25). ウロコカジカ *Stlengis misakia* (JORDAN et STARKS) .1948年1月22日伊豆大瀬沖トロール、150~250尋で漁獲の2点入手、全長86, 88mm. 虹彩はオリーブ褐色、内細輪は黄金色、背面は帯オリーブ黄色のものと帯紅褐色のとがあり個体變化の1例を示す。眼前から頭上は暗バラ色を帯びる。眼下に灰褐色の斑紋があり、中1個は眼下に向う。鰓蓋前骨にある鈎は長く、4棘鈎を有し、下方には3棘がある。鰓條の後方のものに2黒斑がある。側線下に1縦列鱗があるのみ〔特徴〕。其の下縁に接し暗褐黒色の圓点又は擬圓斑8~9個以上ある。これは個体により數と形に相違がある。D. は淡灰色地に2灰色縦帯と第5~第9棘の上方に特徴たる1. 大黒斑がある。軟條部は淡灰色の地に4灰色斜帯がある。P. は淡黄色に灰色微小点があり、基部上方に1黒擬圓点が明存する。V. とA. は白色。C. は淡シトロン黄色で、先方近くに不判明の暗色斑点があり、基底上方に1黒擬圓点が明存する。

(26). キヌカジカ *Furcina ishikawae osimae* JORDAN et STARKS. 田中博士(1931)や蒲原教授(1950)はサラサカジカ(*F. ishikawae*)とキヌカジカ(*F. osimae*)とを合一した。しかし斑紋上の相違とID. に明かな缺刻のあること等で後者は前者の亞種又は型として分つべきかと考える。1946年5月31日我入道の小タイドプールで幼魚10点(全長42.5~65mm.)を採集した。是等は全部ID. に缺刻が明存し、斑紋はJORDAN & STARKS, Proc. U. S. Nat. Mus., xxvii, p. 305, fig. 33に全く一致し同書のfig. 32(サラサカジカ)とは全く異なる。虹彩は橙黄赭色、内細輪鮮赤色である。頭部はオリーブ灰色、下顎から鰓條は蒼綠色。ID. は白地に紫灰色の不規則の斑帯があり、IID. は淡黄色の地色に8~9の赤藤色の斜帯があつて頗る美麗である。体側は前半黄綠色、後半赭紅色で背方に4~5個の灰褐色縁ある淡色斑があり、体下半部に凹凸した波状の灰褐色1帯があり、其凹部は多くの黄色小斑を包む形をとる。P. は赭紅色、A. は綠黄色に淡褐軸斑があり、C. は淡赭紅色に黄色の小横斑を所々に散在する。

牛臥~我入道間の砂濱間の岩礁地帯には紅・褐・緑の3種藻類が繁茂しその爲め本種やコケギンボ等の体色に大に變化に富むのは誠に面白い現象である。

(27) イダテンカジカ *Ocynectes maschalis* JORDAN et STARKS. 1948年6月7日我入道にて1点(全長47mm.)を採集。背及び側線上方は葡萄灰色の地に擬黒色の約5横帯がある。眼下部に4点程の擬黒色斑があり兩顎にも鰓條にも小擬黒斑がある。上下唇には黒点の外、綠蒼色と白色との小斑点がある。側線下に上向した半月形黒斑が6~7個連続し、各々の中心は灰桃色の1点を有する。口角、鰓蓋の鰓條、胸から腹は淡美綠蒼色である。ID. は第4棘部が多少凹み、膜は無色透明で、後端に1擬黒色点があり、前端と中央にも少量の灰黒点と1縦帯とが不判明に存する。IID. は透明膜を有し、各軟條に淡灰色と灰紅色との交互点がある。P. は透明で、各軟條に橙黄色と灰黄色との交互点を有し、基部に灰黒の1大斑がある。V. は淡綠白色。A. は透明、僅かに淡灰色と灰紅色との小点が交互する。C. は淡黄白色で透明、それに灰紅色の3横点列が明存する。虹彩は淡紅灰色。當灣では非常に稀種である。

(28) アサヒアナハゼ *Pseudoblennius Cottoides cottoides* (RICHARDSON) .アナハゼ(*P. c. percoides* GÜNTHER)とは同1種で只亞種的の差であると考えるのが正しい様である。我入道にて1948年6月7日に沿岸海藻中から採集した。これは岡田・内田・松原、日本魚類圖説、1935, pl. 125, fig 3に全く一致した色彩である。しかし生活中は色彩が著しく淡色である。詳細は略す。虹彩は上方灰色、下方銀白色で、眼先きから眼を斜走する暗紅色帯がある。死後は前記圖説の圖通り暗赤色の虹彩と變る。

アナハゼの体色は普通型は蒼味少き黄オリーブ色を主とするが、緑藻類の多い桃郷沿岸のものは蒼色を著しく帯びて来る。体色や斑紋ではアサヒアナハゼとは一見して大に異なるものである。

(29) **オビアナハゼ** *Pseudoblennius cottoides zonostigma* JORDAN et STARKS. これもアサヒアナハゼの1亜種と見るのが正しい様である。1947年9月19日伊豆田子附近のアジ夜網に入つた只1点(全長104.5mm.)を入手した。他の亜種よりも多少深海性らしい。虹彩は紅銀色、上方縁オリーブ色、下方に1褐色斑があり、内細輪は紅黄色、其他瞳孔と上方との間に帯赤色2~3の点と線とがある。時を経れば虹彩は一樣の暗褐色に變じた。体形はアナハゼに類似し、体面にも粘液が多い。背面は淡焦茶色で側線は美しい赤紫色でその下方は帯淡紅白色で、約6横帯があり、各帯は不規則ながら2平行状をなし各帯は何づれも暗黒褐色の擬圓点から成る。ID. の棘軸は暗董色、膜は淡オリーブ灰色、第1棘膜上端と第8~10棘の膜に各1黒大斑がある。〔特徴〕。是等の膜及軸に美紅色の長味斑がある。IID. は ID. より明に高く、膜は淡バラ白色(透明)、軟條軸は淡暗董色で、それに美紅色の約5~6横点列をなしている。P. は上方 $\frac{2}{3}$ は淡紅白色に紅軸を、下方 $\frac{1}{3}$ は黄色軸を有する。V. は不透明白色。A. は IID. と同様で約4~5横斑があり基部の2帯は紅茶色である。C. は分岐軟條の先端 $\frac{1}{3}$ は淡橙黄色、基部 $\frac{2}{3}$ の軟條軸は赤色である。

(30) **キホウボウ** *Peristedion orientale* T. et S. 1948年1月22日伊豆大瀬沖トロール、150~250尋で漁獲の2点(全長鼻突起共104, 205mm.)を入手した。上記の内小形の個体は体色が帯赤黄色でキホウボウの名に當るが、大形の方は帯黄紅色で、赤味が著しく強い。故に一般に考えられるよりも赤きものらしい。ID. の上縁は黒く、IID. は上縁幾分黒点を有するも黒縁とはならない。此軟條部中に1淡褐点列あるのが普通である。体の虫喰形の斑線はヒゲキホウボウより暗色で暗褐色を呈する。P. にも2帯があり淡赤色で是等の帯中に少し暗褐斑を交へる。虹彩は淡黄金色、上方灰色、内細輪は黄金色である。

(31) **ヒゲキホウボウ** *Satyrichthys amiscus* (JORDAN et STARKS)、前種と同日伊豆大瀬沖トロールで漁獲の2点(全長鼻突起共182, 208mm)を入手。体は紅色で、幾分黄色と赤色とを加味するが頗る濃紅色に見える。以上は成魚と中成魚のことで若し幼魚なれば黄味が多くなるかとも思う。鼻突起は幅廣く上から見て淡紅白色である。頭甲部は一体に濃暗紅色、後方の突針は淡色となる。背は帯赤紅色、体の網目斑は、濃暗紅色。鬚は濃鮮紅色。D. 棘は淡灰色、先半眞黒色、軟條は淡バラ色で、その前部の上縁は少しく灰黒色。P. は濃灰黒色、基部と先端は少しく白色にバラ色を帯びる。P. の遊離軟條はバラ白色。体棘は灰白色。A. は帯白色にバラ色を帯び、C. もバラ白色である。虹彩は銀色で、外輪は深バラ赤色を呈す。〔本種の屬名については蒲原氏近著参照〕。

(32) **ワニギズ** *Champsodon vorax* GÜNTHER. 1945年11月2日千本沖手繰にて漁獲の1標品(全長84.5mm.)背面は淡帯黄淡綠色に僅に淡桃色を帯び、背と側面とに淡褐色の多數の小汚斑点を散在するので、一見背面が褐色に見える。側面と肛門以下の尾部の地色は淡黄金色。腹部、鰓蓋及び胸側は光銀色に僅に黄味を帯びる。下顎と上唇は桃色を帯びる。各鰭は殆ど無色で、D. は多少褐黄色を帯びる。C. は明かに美黄色である。C. 基底には1大灰黒斑がある。虹彩は黄褐色、下方に1赤点がある。本種のこの色の記載は始めてかと思う。

(33) **コケギンボ** *Zacalles bryope* JORDAN et SNYDER. 1946年5月31日牛臥岩礁で1尾(全長57mm)及び我入道岩礁で1尾(全長34mm)を得た。前者は紅藻ある處から採集のもので体色、斑紋の外は葡萄赤色を呈し、P. の基部に帯黄銀白色(暗斑入)の1大斑がある。虹彩は赤色・黒色放射斑がある。我入道の標品は普通色で褐藻地域で採集のものである。即ち体色は銚色で、体側上半は暗黒褐色、下半は淡黄銚色をなし、横斑は極めて細い。上下の境は極めて鮮明。P. 基部に黄銀白色(無紋)の大斑がある。虹彩は暗褐色。

以上で見る如く体色の棲息地による相違は虹彩の色迄体色に一致して變化することが知られる。

(24) **アイトラギス** *Bembrops caudimacula* STEINDACHNER. 1946年1月18日千本沖70—80尋の手繰網に入つた幼魚2点(全長70, 174mm)を入手した。これは來從ハイゴチ(*Bembradon laevis* NYSTRÖM)と稱したが、蒲原教授(1950)や私の調査ではアイトラギスの幼魚なることに着し得た。虹彩は上方蒼色、下方は帯黄白色に橙赤色斑があり、内細輪は黄金色。背面は半透的淡灰色で、鱗は大形で各縁は暗灰色で菱形網目状に排列し、体側に光ある緑黄色の斑が縦帯状に2~3列あるも極めて不規則にある。此金緑黄色は吻及び頭側にもあること光線によつて見られる。腹面は擬白色、D. は淡色で、それに淡緑黄色の小斑があり、ID. の第1~2棘間に眞黒色斑が1個ある。P. は殆ど白色、軟條は暗色線となり稍々明瞭。V. は白色で暗色軟條は不判明。A. も同様で暗色線は黒く尙ほ明瞭となり基底に暗色の小縦短線が平行に梯状に列ぶ。C. は淡色地に暗色細縦線が軟條にあり、その他緑黒色5~6個の長圓斑があり、上方基底近くにある1長圓斑は最も明瞭で、今回の大形標品ではその内に金緑色の小斑を有する。C. 上方軟條は少しく延び淡緑黄色を呈する。後頭から頭側は桃色を呈し、鰓蓋には金緑黄色の數個の小圓斑と同色の虫喰形の數個の小斑とがある。

以上の色彩の記載は今回始めて公になると思う。因に成魚との相違他の点は拙稿「魚類學雜誌」第1巻第1號及び「動雜」61巻6號175頁参照のこと。

(35) **イジマダルマガレイ** *Psettina ijimae* JORDAN et STARKS, 1948年2月4日志下にて幼魚1点(全長51mm.—成魚でも120mm. 位迄)。有眼側は一樣な暗灰色で、D. とA. に沿える体の上下方に4對の小圓斑が粗在し、側線上下の体の中央部には認められない。側線上には4~5の暗灰黒色斑点と体後方の側線下に擬圓斑線があるが、稍々不明瞭。鰓蓋部は暗桃色。D., A. 及びV. は膜が淡色で、軟條に暗褐色小軸斑2~3を有する。C. も同様の地に先端近くに暗褐色の1横帯があり、其他不判明の淡褐色横斑又は横帯を有する。虹彩は上方灰褐色、下方は淡色、内細輪は黄金色。無眼側は白色。D. 90; A. 69; Scales 59.

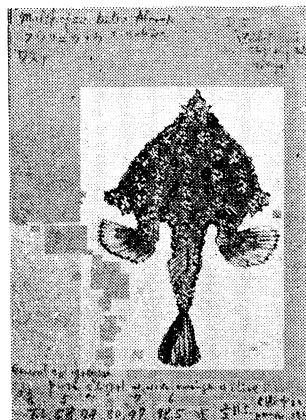
(36) **エゾイソアイナメ** *Lotella maximowiczi* HERZENSTEIN. 1946年10月31日千本沖手繰網に入つた中幼魚1点(全長173mm., ID. 10; IID. 65+; A. 70)を入手した。虹彩は濃暗褐色、内細輪は白色、背面は暗オリーブ色に黄色を帯び、体側は幾分淡く、鰓蓋後方と、P. 附近の上下部、喉及び腹は暗黒藍色(方言ノドクロ)。A. の始部上方に接する部に多少銀白の細き1縦帯がある。ID. は基部オリーブ色、次に淡紅色、先端に黒色の3帯を有する。IID. はオリーブ黄色で、所々に不判明の淡灰色の大斑状があり、上縁黒細線となる。P. は美淡紅色、V. も淡紅色。上下唇は淡桃色、顎及び觸鬚は基部淡紅色、先白である。A. は前方基部淡蒼色、大部分は淡灰色、次に美桃色部が長く、最後は淡黄色で、外縁は細黒線となる。C. は灰オリーブ色で、中部以下の下方は淡黄色である。因にイソアイナメ一名ヒゲダラ(*L. phycis* (T. et S.))とは鰭の軟條數の相違の外、体色も著しく異なるらしい。田中博士の原色日本魚類圖鑑のヒゲダラと比せば全く異なる。エゾイソアイナメの稚魚(全長50mm. 内外)を検したが上記の中幼魚と色彩上の差は認められなかつた。

(37) **ワヌケフウリュウウオ** *Malthopsis annulifer* TANAKA. 1948年1月22日伊豆大瀬沖トロール、150~250尋で漁獲の5点(全長58~98.5mm)を入手した。背面は帯灰紅色に微かに橙黄色とオリーブ色とを帯びる。眼下部と尾部兩側とは帯赤色。大体に於て大形のものは赤味多く、幼は灰色に富む様なれども、個体的に暗色のものと淡色(赤味多き)のものとある。体背面と尾背には白色の星形斑が多い。D. 5(蒲原氏の調査通りで、6~7は別種)で、淡汚黄色。P. は淡黄白色、基半は淡黄赤色、V. は擬白色、基部に少し橙黄赤色を帯びる。C. 下方 $\frac{1}{3}$ 軟條は鮮バラ赤色、上方 $\frac{2}{3}$ は淡帯黄白色。これも個体的に赤色の少きものや殆どないものもあるが、P. とC.

に明瞭な1横帯は認められない。〔これは幼の爲めか又は種の異なる爲めか〕。虹彩は黄金色、上方は灰褐色である。

体の背面には黒縁の圓斑又は長味斑が種々に變化し、浦原氏 (1950) の調査では1~16個となつているが、私の例では0~7個でこれは見た數の少い爲めと思う。表記すると次の通り。

全 長	背の圓斑數	背面の地色
58mm	5	帯 灰 色
79	なし	同上、少し赤味
80	なし	同上、同 上
97	7	灰 紅 色
98.5	6	灰 紅 色



第4圖ワヌケフウリュウウオ全長

98.5 耗のもの 背面の円斑6個  
著者寫生 大瀬沖トロールにて

#### Résumé

The part two of this article contains descriptions of life colors of the specics nos.19-37. The life colors of the following fishes have not hitherto been described or described only briefly by previous authors: *Sebastodes scythropus*; *Setarches fidjiensis*; *Brachirus bellus*; very young stage (total length 45 mm.) of *Agrammus agrammus* with vivid bluegreen back; *Stlengis misakia*; *Furcina ishikawae osimae*; *Ocynectes maschalis*; three forms of *Pseudoblennius cottoides*; *Peristedion orientale*; *Satyrichthys amiscus*; *Champsodon vorax*; two color types of *Zacalles bryope*; "*Beuibradon laevis*" (this fish is now considered as a young stage of *Bembrops caudimacula*, which coincides with the opinion of Prof. KAMOHARA (1950)); stage *Psettina ijimae*; *Lotella maximowizi*; *Malthopsis annulifera*; etc.